

平塚市平塚城跡 第2地点 発掘調査現地見学会

平成31年4月20日(土)
主催：(株)玉川文化財研究所
協力：平塚市教育委員会

1. 遺跡の紹介

遺跡名……平塚城跡(ひらつかじょうせき)第2地点(県遺跡番号 平塚市No.55)
調査の理由……平塚農業高校商業教育棟校舎の建築が決まり、工事の前に遺跡の調査を行うことになりました。

遺跡名の由来……平塚城跡は、『鎌倉大草紙』などの資料に、室町時代中期の大森伊豆守が太田道灌に攻められる記事に関連してその名を見ることができそうですが、詳細は伝えられていません(市史より)。

場所……平塚市達上ヶ丘 10-10

調査期間……平成30年6月11日～平成31年6月30日(予定)

2. これまでに発見された遺構と遺物

【近世以降(安土桃山・江戸時代から昭和時代前半)] 約70～430年前

遺構-溝状遺構4条、畝状遺構111条、宝永火山灰集積遺構9基、土坑85基、
ピット104基、竪穴状遺構(防空壕)4基、道状遺構2条、煉瓦積み遺構1基
遺物-陶器、磁器、レンガ、牛乳瓶(平塚農業高校食品化学科)など

【中世(鎌倉時代から室町・戦国時代)] 約430～840年前

遺構-竪穴状遺構11基、溝状遺構3条、土坑75基、土坑墓1基、ピット73基
遺物-青磁

【古墳時代後期～奈良・平安時代] 約840～1400年前(現在調査進行中)

遺構-竪穴住居址24軒、掘立柱建物址1棟、竪穴状遺構4基、溝状遺構6条、
土坑70基、ピット78基(4月10日現在の遺構数)
遺物-土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、石製品(砥石)、鉄製品(鉄鏃)など

【縄文時代晩期頃] 約3,000年前

遺物-石製品(石鏃)

3. 平塚城跡と周辺の遺跡

平塚城跡は平塚農業高校の敷地内を中心に南北約250m、東西約300mの範囲に広がり、今回調査区の東側に位置する貴峯荘敷地内では、第1地点の調査が行われ、奈良・平安時代を中心とする竪穴住居址、掘立柱建物址などが検出されています。また、周辺には達上ヶ丘遺跡、中里A～D遺跡が位置します。達上ヶ丘遺跡(平塚農業高校東側住宅地、平塚農業高校実験実習棟)や中里B遺跡(平塚農業高校正門前の道路拡張部)でも古墳時代後期～奈良・平安時代を中心とする竪穴住居址、掘立柱建物址、溝状遺構、土坑などが検出されています。



はじき
土師器



すえき
須恵器



かいゆうとうき
灰釉陶器



りよくゆうとうき
緑釉陶器



てつぞく
鉄鏃



せきぞく
石鏃

4. 用語解説

遺跡……過去の人類が残した生活・活動のあと

遺構……過去の人類の活動痕跡(竪穴住居址や掘立柱建物址など)

遺物……過去の人類が残した土器や石器など

竪穴住居址……地面を掘り込んで作った半地下式の家

掘立柱建物址……柱穴が並ぶ倉庫風の建物(住居としても使用)

竪穴状遺構……竪穴住居址と同様に半地下式の構造で、カマドや柱穴などを有していないもの

溝状遺構……細長く溝状に延びるもの

畝状遺構……溝状遺構と同様に細長く溝状に延び、溝が直線的に複数並んだもの

土坑……地面に掘り込まれたいろいろな穴(だいたい1m前後のものが中心)

ピット……柱穴状の穴

土師器(はじき)……古墳～奈良・平安時代に使われた素焼きの土器

須恵器(すえき)……古墳～奈良・平安時代に使われた登り窯で焼かれた陶質の土器

灰釉陶器(かいゆうとうき)……平安時代に作られた植物灰を使った施釉陶器

緑釉陶器(りよくゆうとうき)……平安時代に作られた鉛釉を使った施釉陶器

鉄鏃(てつぞく)……鉄製の鏃(やじり)

石鏃(せきぞく)……石製の鏃(やじり)

鎌倉大草紙(かまくらおおぞうし)……室町時代の鎌倉・古河公方を中心とした関東地方の歴史を記した歴史書(1380～1479年の歴史を記している)